



3 章 日本の住まいの要素

日本の住まいの要素を 36 種類取り上げ、それぞれについて、採用のメリットや採用する上での留意点等を、事例を交えて解説します。

日本の住まいの要素

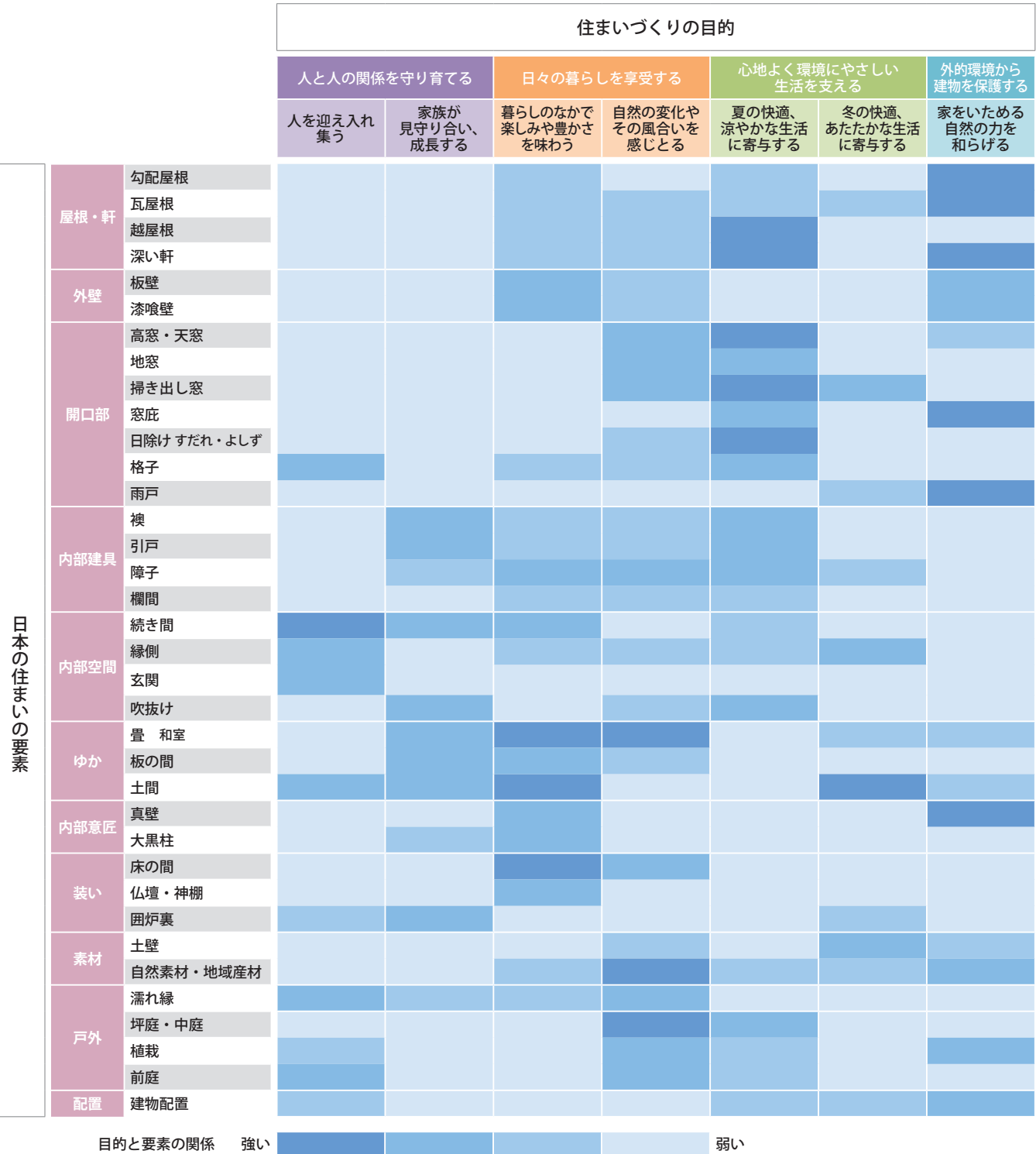
現代における4つの「住まいづくりの目的」を達成するためには、建物の形式、材料・構法、空間構成等の要素（ハード面）と、住まいを維持・管理し活用する方法（ソフト面）の両方を上手く用いなければなりません。

手引きでは、このうちハード面の「日本の住まいの要素」を36種類取り上げ、その概要と事例を紹介します。事例は、住まいづくりに参考になりそうな手法・技法を、

伝統的な住まいと現代の住まいから広く取り上げます。

下の図は「日本の住まいの要素」と「住まいづくりの目的」の関係を表しています。住まいづくりで重視しようとする目的を実現するためには、関係が深い要素を採用することが有効になるでしょう。

ご意向や条件に応じて採用できそうな要素を探すヒントにしてください。



表／「日本の住まいの要素」と「住まいづくりの目的」の関係

3.1 屋根・軒

勾配屋根

こうばいやね

雨の多い日本では、屋根に降った雨水を速やかに排水できるように、勾配のある屋根が発達してきました。

メリット：①雨水を速やかに排水することができるため、屋根の防水性能が向上。②多雪地域では金属葺きとすることで屋根雪を自然に落とすことが可能。③伝統的な町家のように屋根の向きを揃えることで美しいまちなみを形成。④小屋裏を内部化して、勾配天井やロフト等拡がりのある多様な室内空間が実現。

留意点：斜線制限のある地域では、北側隣地への圧迫感を軽減するような屋根の掛け方が必要です。



●（雨水の排出） 急勾配の屋根は雨水を早期に排出し、屋根の防水性を向上（大分）



●（まちなみの創出） 屋根の向きが調和した美しい町家のまちなみ



●（楽雪屋根） 雪割棟を設け、金属葺きとして屋根雪を自然に落とす。山並みに調和（富山・楽雪住宅）



●（集落景観の形成） 特徴的な集落景観を形成する勾配屋根の美しい民家（富山・アズマダチ）

瓦屋根

かわらやね

日本の瓦の歴史は古く飛鳥時代までさかのぼります。瓦は日本の気候風土に適し、耐久性と美観を兼ね備えた屋根材料と言えます。

メリット：①耐久性が高く沿岸部の塩害にも強い。②劣化・破損しても部分的な交換が容易。③裏面の空気層による断熱効果や下地の乾燥効果。④いぶし瓦等は経年とともに趣きを増す。⑤自然素材のため廃棄後も土に還る。

留意点：重量が大きいため、金属屋根等と比べて壁量を増やす必要があります。地震や風等の外力に配慮した留付け方法を採用しましょう。



●（上屋と下屋） 瓦の美しい屋根並み（富山・八尾）



●（地域産材の瓦） 赤瓦による地域固有の景観（島根・石見）



●（いぶし瓦） 経年変化により美しさを増すいぶし瓦（写真：①）



●（越屋根の現代住宅）採光・通風・換気を目的とした越屋根（写真：①）



●（越屋根の現代住宅）美しい景観を創出する越屋根（写真：①）



●（越屋根の現代住宅）越屋根の頂側窓からそそぐやさしい光（写真：①）



●（深い軒とけらば）軒・けらばを共に外壁から大きく張り出し、外壁を保護し半外部をつくる（写真：⑥）



●（軒下の利用）軒下の多様な使われ方（ウッドデッキ、薪の乾燥等）（写真：⑥）



●（まちなみ創出）深い軒による陰影のある美しい外観（熊本・水俣エコハウス）（写真：⑦）



●（せがいつくり）軒を深くだすための伝統的な工法「せがいつくり」（新潟・山古志）

越屋根

こしやね

越屋根とは、元々は囲炉裏やかまどの煙出し等のため、屋根の上に一段高く設けた小屋根を言います。この例のように、現代の住宅にも上手く取り入れられています。

メリット：①越屋根に設けた頂側窓（ちょうそくまど）から採光や通風・換気を得ることができるため、奥行の深い住宅に設けると効果的。②天窓と比べて均質の明るさや安定した通風が得られ、かつ防水性に優れる。③屋根形状にアクセントを与え、美しい景観を創出。

留意点：本屋根と越屋根の取り合い部の雨仕舞に十分注意しましょう。

深い軒

ふかいのき

降雨から外壁を保護し、夏の日射を遮蔽できるように、屋根の軒を深く出す建築様式が発達してきました。

メリット：①雨・雪から外壁・開口部を守り建物の耐久性を向上。②夏の日射遮蔽による冷房負荷の軽減。③軒裏の反射光を室内に導き入れることが可能。④建物外周に半屋外の間接領域（縁側や軒下空間）を創出。⑤陰影のある美しい外観やまちなみの創出。

留意点：敷地にゆとりがなく隣家が近い場合は、雨掛りの大きい面（道路側等）だけでも十分な軒の出を確保しましょう。

3.2 外壁

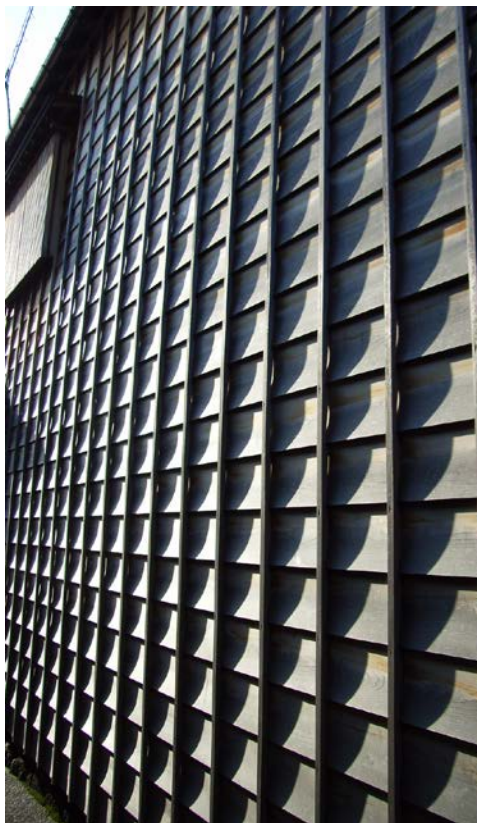
板壁

いたかべ

板張りの壁（板壁）は、元々は外壁の塗り仕上げ面を風雨等から保護する目的で用いられてきた外壁仕上げで、下見板張り、縦羽目張り等の工法があります。

メリット：①自然素材による落ち着いた風合いの外観。②腐朽や汚損が進んでも部分交換や補修が容易（工業製品と違い材料の調達が容易）。③地域の木材や大工技術の活用による森林の保全育成・地域経済の活性化。

留意点：外壁に防火構造が求められる地域では、防火構造とした上で板張りとする等の工夫が必要です。塗装を行う場合は、木目を消さない含浸性の塗料がお勧めです。



●（下見板張り）下見板張りにより土壁を保護した例



●（腰板張り）外壁の上部は漆喰壁とし、雨掛りの多い腰壁を板張りとする例（写真：①）



●（板壁の補修）塗装を施すことにより部分的に張り替えた板壁の箇所がほとんど目立たない例

漆喰壁

しっくいかべ

漆喰は、土壁の上塗り等に用いられる水酸化カルシウム（消石灰）を主成分とした建材です。外壁だけでなく、内壁にも使えます。

メリット：①防水性があり不燃素材であることから外壁仕上げに用いると防水性能・防火性能が向上。②吸放湿性や空気中の化学物質を吸着・分解する働きがあり室内空気環境を向上。③自然素材と職人の手仕事による風合いの良さ。洋間にも漆喰は調和する。

留意点：漆喰は汚れにくい材料ですが、ビニールクロスのように水拭きはできません。メンテナンスの方法は専門の方に聞きましょう。



●（伝統的な民家）伝統的な民家の漆喰壁



●（現代的な住宅の漆喰の外観）下見板張りとのコントラストによる美しい漆喰壁



●（漆喰の内観・和室）左官職人の手仕事による風合いのある内部の漆喰壁（写真：⑥）



●（漆喰の内観・洋間）洋間にも調和する漆喰（写真：⑥）

3.3 開口部



●（現代の住まい） 吹抜け部分の上部が開口となっている例。高窓の効果期待できる



●（伝統的な民家） 町家の土間の採光と換気を確保する高窓と天窓



●（現代の住まい） 通常の天井高さで内法の上端が開口となっている高窓の例（写真：④）

高窓・天窓

たかまど ・ てんまど

高窓は、外壁の上部に設ける窓を言い、天窓は天井面に設ける窓を言います。採光や排熱・通風に効果があります。

メリット：①高い位置に設けられる開口のため、採り入れた光が部屋の奥まで届き、均一性の高い明るさを確保。②室内の上昇する暖かい空気を流出し易く、夏の排熱・排湿に効果的。③自然換気・通風を促進。

留意点：高窓は、日除けや開閉方式、清掃等のためのサービスバルコニー、デッキや梯子をかける場所の検討が必要です。天窓は特に雨仕舞への配慮、点検ルートの確保等が必要です。



●（伝統的な民家） 町家中庭に面した開口



●（現代の住まい） 玄関ホールできれいに庭の植栽をみせる地窓（写真：①）

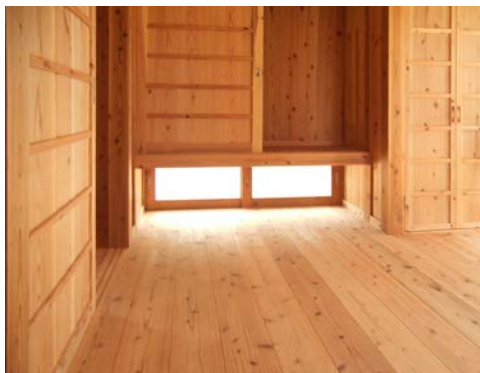
地窓

じまど

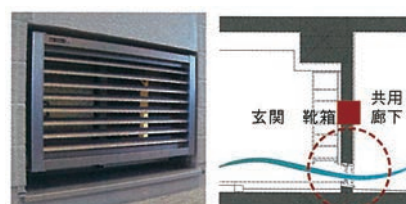
地窓は、床面に接して設ける外壁の窓のうち、高さが低いものを言います。採光や換気、戸外鑑賞の機能をもちます。

メリット：①床面の明るさを向上。②アイレベルにある隠したいものを隠しながら、足元にしつらえた見せたいものだけを見せる。③開閉させることで、床に近い高さの空気を動かして換気・通風する。

留意点：接地階の地窓は床面に近いため、雨がかったり泥が跳ねたりしないように配慮が必要です。庭等を見ることが主目的の窓はガラスのみできれいにつくりませんが、換気・通風に使う場合は開閉方式や防犯に配慮した格子等の設置を検討します。



●（現代の住まい） 収納下の換気に配慮した地窓



玄関靴箱下換気用地窓

玄関靴箱の下部に換気用地窓を設け、玄関扉を開けなくても、風の通り道を確保。共用廊下側に面格子を設置し、防犯性にも配慮しています。

●（集合住宅の事例） 住戸の通風に配慮した玄関収納下の地窓（写真・図：③）

掃き出し窓

はきだしまど

掃き出し窓は、床面の位置から内法（鴨居）レベルまで開いている窓を言います。各室が外部から出入りでき、引違いのほか、引込み戸による全開口や一部を嵌め殺し窓とする等、多様な開口形式があります。

メリット：①内外の一体性が向上し、人の出入りが可。②室内への十分な採光・通風の確保。③床面の明るさ向上。④冬期の集熱に有効。

留意点：屋外の空間構成や用途に配慮した設えとします。縁側、濡れ縁（デッキ）やバルコニー等と上手く組み合わせます。



●（伝統的な民家） 屋外と室内の一体性を高める掃き出し窓



●（現代の住まい） 引違いでリビングと庭が連続する例（写真：①）



●（現代の住まい） 引込み戸で全開口となり、リビングと外部デッキが連続する例（写真：①）



●（集合住宅の事例） フルフラットでリビングとバルコニーが連続する例

窓庇

まどびさし

窓の上に取り付ける庇を言います。直上に屋根がない場合、軒やけらばの出が小さかったり距離がある場合に、雨水対策や日射遮蔽に有効です。

メリット：①窓が雨がかりにならない、水切りの役割となることにより、開口部を雨水から保護し、建物の耐久性向上に貢献。②日除け、日射遮蔽の役割（とくに南面）。

留意点：庇を支持する構造材の固定、庇の両端部、庇と開口部の取り合い等には、防水、外壁仕上げの納まりに特に配慮が必要です。日射遮蔽に用いる場合、庇の出寸法は方位、太陽高度等に配慮します。



●（現代の住まい） 妻壁の開口部に設けられた窓庇（写真：①）



●（ハウスメーカーの事例） 上部に軒庇のない掃き出し窓に取り付けた庇（写真：⑨）



●（現代の住まい） 妻壁の開口部に設けられた窓庇（写真：⑥）



●（伝統的な事例） 軒の中間に簾が連続してかけられている



●（現代の住まい） 軒先に吊るされた簾。軒先から少し内側に設けた方が耐久性は向上する（写真：⑦）



●（現代の住まい） 開口のすぐ外部に吊るされた例。開口から離れたほうが遮熱の効率は良い



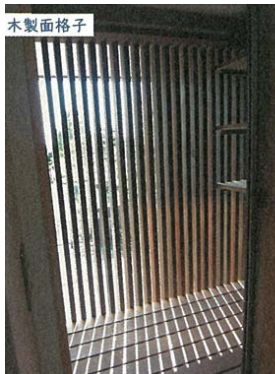
●（ハウスメーカーの事例） 窓底の先端に簾を吊るするためのフックが取り付けられている（写真：②）



●（伝統的な事例） 京町家で通りからの視線制御を主に意識している



●（格子戸） 締め切ると、風を通しつつ中から外は見え、外からは見えない。まぶしさも緩和（写真：①）



●（多様な格子） 道路に近い場所等視線制御を主に目的として利用できる（写真：①）



●（ハウスメーカーの事例） 金属製の格子でやさらかしいしつらえを演出している



日除け

ひよけ

すだれ・よしず

すだれ（簾）とは、よし（葦）や細い竹を、糸や細い縄で編み連ねたもので、窓の外や軒先に垂らして日射を遮蔽できます。

メリット：①窓の外側に必要時に設けて日射を遮る。外部に吊るすことが可能なため、カーテンや内部ブラインドより効果的に日射を遮断。②内部が外部より暗い場合（日中）、外のまぶしさを緩和。③外部からの視線を遮りながら通風を確保。

留意点：予め吊るすための金物を庇・軒先等に設ける必要があります。架掛いが可能で、強風時や冬期等には取り外します。その際の収納場所を確保します。

格子

こうし

細い角材を縦若しくは横、縦横に隙間を開けて組み、建物本体や建具に取り付けます。視線・通風・明るさ等を制御します。

メリット：①外部（斜め方向）からの視線を遮る。②日中、内部が外部より暗い場合、外のまぶしさを緩和。③通風を確保しながら、防犯の機能も有する。④角材の断面、ピッチにより効果的に日射を遮蔽。⑤細やかで美しい意匠。

留意点：外部に木製格子を用いる場合、防火規定に関する運用方法の確認が必要な地域があります。また、耐久性への配慮のため、木製の縦格子では木口、横格子では部材上部に水をとめない断面形状とする等の配慮が必要です。

雨戸

あまど

開口部を風雨から守るために、開口の外側に設けられた板引戸を言います。最近ではシャッターや可動ルーバーが組み込まれた製品もあります。

メリット：①開口部を風雨から保護。②台風時の飛来物から窓ガラスを保護。③防犯の機能。④遮音・遮光。⑤可変ルーバータイプは夜間の防犯と通風の両立や細かな遮光が可能。⑥ガラス戸、障子と組合せて開口部の断熱性向上。

留意点：木製の雨戸は下枠に水が溜まらないようメンテナンス等に配慮します。シャッターでは、開閉を容易にするために、電動もあります。



●（伝統的な民家） 板戸の雨戸



●（現代の住まい） 可変ルーバータイプの雨戸の例（写真：⑨）



●（現代の住まい） シャッター形式の雨戸の例（写真：⑨）

3.4 内部建具



●（伝統的な民家） 間仕切り板戸の引戸の事例（写真：①）



●（現代の住まい） 通風に配慮した格子を組み込んだ引戸の事例（写真：①）



●（現代の住まい） 夏期のしつらえとしての簀戸（簾を仕込んだ建具）の例（写真：①）



●（現代の住まい） 上部に無双（2枚の板を左右に移動させて開閉する戸）を組み込んだ建具（写真：①）



●（現代の住まい） 引込み形式の襖の例（写真：①）



●（現代の住まい） 現代の住まいの畳コーナーに取り入れられる襖の例（写真：⑩）

引戸

ひきど

水平方向にスライドさせて開閉する建具を総称して引戸と言います。開閉のしかた（片引き、引違い等）、建具の仕様（面材、格子等）等多様なバリエーションがあります。

メリット：①開き具合を任意に調節可能。少し開けて通風や隣室の雰囲気を感じることができる。②開いた状態で建具が邪魔にならない。③高齢者等にとっても開閉が容易。

留意点：大きな引戸は重くなりますので、吊戸とする等作動させやすくする工夫が必要です。また、丈の高い木製の建具は季節により反りが生じやすいので配慮が必要です。

襖

ふすま

木の骨組に紙を下地貼りし、表面を紙または布とした建具を言います。襖紙、下地、縁、引手に様々な種類があります。

メリット：①簡易に扱える室と室のあいだの間仕切り。開け放しや取り外しがし易い。②様々な収納扉に利用できる（押入、天袋、地袋、仏間開き戸等）。③多様な図柄、素材、色調により装飾品となる。④茶道、華道、着付け等の活動に相応しい場の設えに寄与。

留意点：木製の組子を骨組とした和襖以外に、ダンボールや発泡スチロールを下地とした廉価な製品も出ています。耐久性や風合い、機能に応じた種類を選択してください。

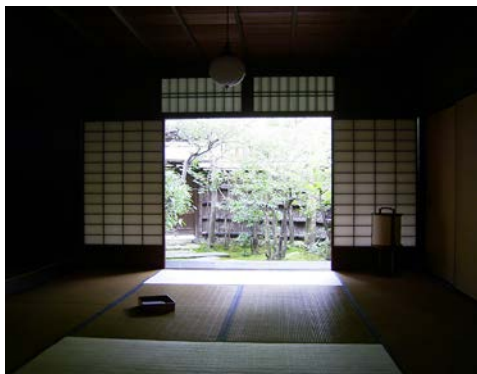
障子

しょうじ

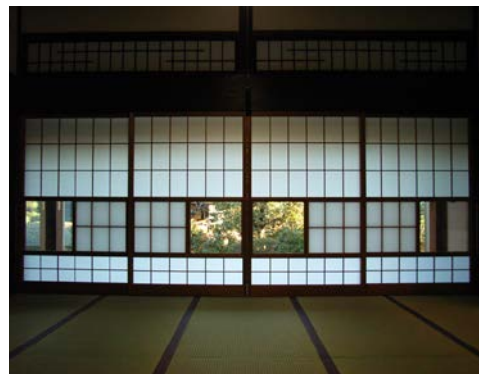
木枠（組子）に紙を張った建具を言います。木枠の組み方やプローションによって、和風から洋風まで様々な趣を感じさせることができます。雪見障子や建具の一部が開閉するタイプもあります。また、引戸だけでなく、折れ戸としたものもあります。

メリット：①直射光を遮り、やわらかい光環境を形成。②開口部の断熱性を多少高める。③視線を制御しながら音、気配を伝える。

留意点：和紙を用いると破れるため、補修、張り替えが必要です。また和紙は時間が経つにつれ変色します。破れにくい素材は張り替えが難しい場合があります。



●（伝統的な民家）和室に障子を用いた例



●（現代の住まい）細やかに視線を制御する雪見障子（猫間障子）の例



●（現代の住まい）洋風のインテリアに障子をマッチさせた例（写真：①）



●（新しい取組）障子を用いた折戸の例（写真：①①）

欄間

らんま

建具上枠（鴨居）と天井の間に設ける建具や飾りを言います。元来は襖、障子上部のもののことでしたが、最近では洋間の開き戸の上部に設ける例も見られます。

メリット：①欄間を透明としたり部分的に開放した意匠とすることで、部屋の間の連続性を確保。②暗い部屋への導光が可能。③開閉可能とすることで、通風・換気を確保。

留意点：欄間をガラス等透明とする際には、遮光に対する配慮も必要です。通風ができる欄間には、開閉する仕組み等を組み込み、冬期等に部屋の暖かい空気が逃げないようにする配慮が必要です。



●（伝統的な民家）襖上部の伝統的な欄間の例（写真：①）



●（現代の住まい）開き戸の上部にガラス等の欄間を仕込んだ例（写真：⑧）



●（現代の住まい）通風を確保するため開閉可能な仕組みを持つ欄間の例（写真：①）



●（ハウスメーカー）天井までの開き戸の上部のみ欄間風に開閉できるようにした例（写真：④）

3.5 内部空間



●（畳の間の続き間）和室二間を襖で仕切った本来的な続き間（写真：⑥）



●（畳の間と板の間の組合せ）板の間のうち畳の間に面する部分を畳敷きとし、連続性を高める（写真：①）



●（畳の間と板の間の続き間）板の間と畳の間を連続させた続き間。和風とモダンの連続（写真：⑥）



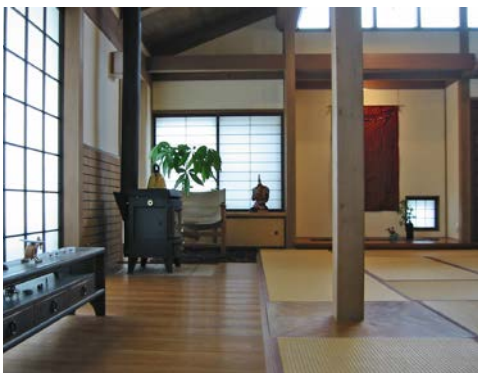
●（畳の間と板の間の続き間）床レベルを揃え襖を引き込むと連続した大きな空間となる（写真：①）



●（伝統的な民家）部屋から庭につながるあいだの落ち着いた縁側



●（ハウスメーカー）最近の住宅における和室前面の縁側（写真：②）



●（現代の住まい）床の仕上げで縁側の空間を創出。空間に変化を与え、畳が日に焼けるのも防ぐ（写真：⑧）



●（ハウスメーカー）洋間の屋外側に連続する縁側。子どもの勉強スペースに活用されている（写真：④）

続き間

つづきま

続き間は、本来、襖で仕切られた和室二間で、襖を外せば広間として使えます。現代の和室と洋室をつなぐものも、ここでは含めて扱います。

メリット：①ひとつつながりの大きな空間は、日常の家族の居場所の広がりや来訪者が来たときの多人数の集まり等、多目的に利用可。②必要に応じて2室を別の用途に利用可（来客のもてなしと寝室等）。③開放性、連続性の高い空間構成は、通風上も有利。

留意点：使い方に応じて閉じ方と開き方、床段差をつくるつくらない、仕上げを揃える揃えないといった要素を決めることが重要です。

縁側

えんがわ

縁側とは戸外と主室に設けられた板敷の廊下状の空間で、主室に至る動線や主室の補助スペースとして利用されます。濡れ縁と違い、縁側は屋内空間です。

メリット：①来客を玄関から座敷に迎え入れる正式な動線となるだけでなく座敷の格調を高める。②座敷等との間の障子を開放することによる一体的な利用や空間の広がりを確保。③夏の日射や冬の冷気から居住空間を守る緩衝空間（寒冷地では冬のサンルームとして使われることもある）。

留意点：床面積にゆとりがあることが必要です。縁側を設けられない場合、濡れ縁を設けることも有効です。

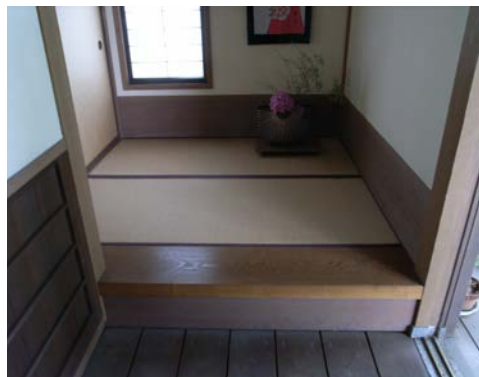
玄関

げんかん

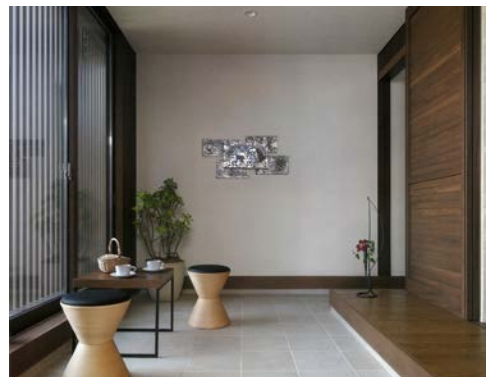
住まいの主要な入口を言います。現代の住宅では、小さな土間と下駄箱といった最小限のものが一般的ですが、土間を大きくして収納やちょっとした接客スペースを設ける等の工夫も増えています。

メリット：①玄関の土間を大きく確保することで、ベビーカーや自転車等の収納に必要なスペースを確保できる。②下足で入れる収納室を確保し、屋外で利用する道具（雪かき、庭用等）の収納の利便性を確保。

留意点：玄関を引戸することでスペース効率が向上します。玄関に開口を設けると採光確保に有効ですが、防犯への配慮が必要です。



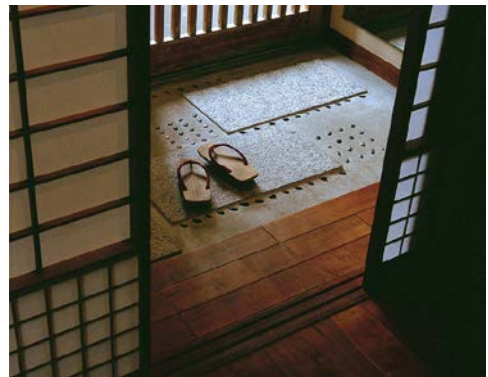
●（畳敷きの玄関） 座って来訪者を迎えることができるしつらえ（写真：⑧）



●（おしゃべりスペースのある玄関） ちょっと坐れるおしゃべりスペースを確保した玄関（写真：④）



●（収納のある玄関） 玄関土間を大きく確保して、収納スペースを確保した例（写真：①）



●（和を取り込んだ集合住宅の玄関） 様々に使える大きさ、風や光の取り込み、和の素材の活用（写真：①）

吹抜け

ふきぬけ

上下の2つの階にまたがる天井の高い空間を言います。部屋全体を吹抜けとするだけでなく、空気の循環をうながすために小さな吹抜けを設けることもあります。新築時に吹抜けとしておき、将来2階を増床する使い方も可能です。

メリット：①空間の広がり感の向上。②上下階の視覚的連続性の確保。③上下階の通風・空気循環の促進。④高窓を設けることにより、下階や室の奥への導光の促進。

留意点：暖房時に室内の上下温度差が大きく異なる傾向があり、放射式暖房の利用等の配慮が必要です。家全体に音が伝わりやすいことにも配慮が必要です。



●（京町家） 通り土間の吹抜け。採光と換気の機能を担っている



●（現代の住まい） 空気の循環を目的とした小さな吹抜け（写真：⑥）



●（現代の住まい） 吹き抜けを介して家全体がひとつながりで一体感を感じられる住まい

3.6 ゆか



●（2面が板の間に面した畳の間） 間仕切りの障子は3／4開放で、一体感、連続性が大きい（写真：①）



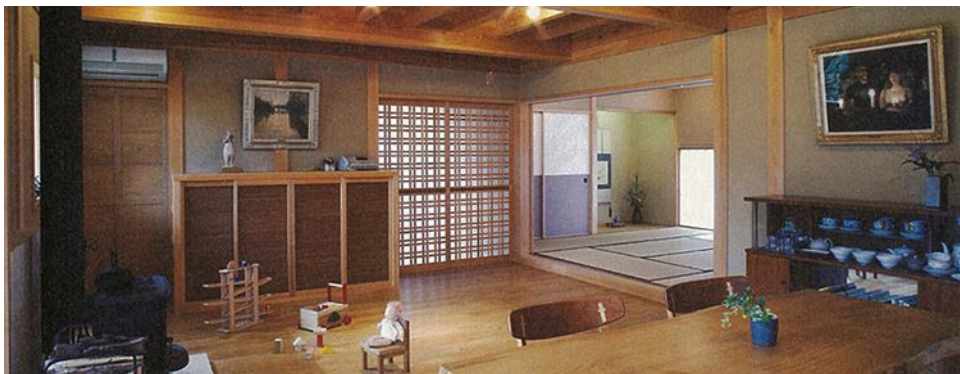
●（縁なしの畳）半畳縁なしの畳はニュートラルな雰囲気、洋間的な用途にも使いやすい（写真：①）



●（下部収納の畳） 下部を収納に利用。畳はオーダーメイドなので自由な大きさがつくれる（写真：①）



●（畳ベッド・集合住宅） 小上がり、ベッド、ベンチ等畳は多様なしつらえに適用できる（写真：⑤）



●（子供の遊び場としての板の間） 弾力性のある樹種を選ぶと、小さい子供の遊び場としても安心（写真：①）



●（床座の板の間） 温かみのある樹種を用い、椅子座と床座を両立する空間をつくるが可能（写真：①）



●（床板の反射） 塗装の種類、色によっては光を柔らかく反射して、部屋全体を明るくする（写真：①）

畳（和室）

たたみ

わしつ

畳は日本の住まい、和室を象徴する床の仕上げ材料です。元来、心材（畳床）は稲わら、表面材（畳表）はい草を材料とする、調湿性能のある自然素材です。

メリット：①ごろごろしたり、床座の生活、子育て、洗濯物の仮置き等の家事室としての活用、客間として用いる等多様な使い方に対応できる。②茶道、華道、礼法、着付け等、和の立ち居振る舞いや活動のための場として欠かせない。

留意点：本畳を入れる場合は、根太下げ等に配慮する必要があります。またメンテナンスの容易さ、耐久性等、畳の種類ごとの特性を踏まえた手入れが必要です。

板の間

いたのま

木板を張った床で、樹種、板厚、板の巾及び塗装の種類等は様々です。無垢板は柔らかく、温かみのある触感です。

メリット：①無垢板の肌触り（柔らかさ、温かみ）。②汚れ落としや傷の補修が比較的容易（削り込み等）。③素地仕上げ等、塗装の種類によっては吸放湿性や反射性がある。

留意点：経年で縮み継ぎ目が広がる、季節ごとに吸放湿し伸縮、床鳴り等が生じる等があり注意を要します。床暖房には対応する床板材を用います。また、触感の良いものほど傷や汚れがつきやすいため、バランスを考えた選択が必要です。

土間

どま

土間は、元来、土や三和土（たたき）等で仕上げられた床で、現代ではタイル、瓦等を敷き込むこともあります。室内空間ですが、戸外的利用も含め多用途に利用できます。

メリット：①外部との連続性が高く、外部のものや動物を持ち込める内部空間として多用途に利用可。②床レベルを室内より低くすることで、室内の床座と土間の椅子座で視線の高さを揃えられる。

留意点：使い方を具体的にイメージして、土間と内外部の連続性や配置・大きさ・仕上げ等を計画する必要があります。単なる通路や物置にならないよう配慮しましょう。



●（現代の住まい）シンク・レンジを仕込んだテーブルでダイニングとして用いられる土間（写真：①）



●（集合住宅）バルコニーに面するリビングの一部を土間にした例（写真：①）



●（現代の住まい）玄関から連続する土間空間。自転車の収納やおしゃべり等の趣味に利用（写真：①）

3.7 内部意匠



●（現代の住まい） 落ち着きと温かみを持たせた真壁の部屋を洋間として使用



●（現代の住まい） 真壁と障子の意匠による、ダイニング・和室の一体感のある雰囲気（写真：①）



●（現代の住まい） 真壁造りで全体を和風の雰囲気に整えた例



●（現代の住まい） 土間と座敷の間の大黒柱。畳を切り欠かないよう敷居位置をずらしている（写真：①）



●（現代の住まい2） 板の間における大黒柱。吹抜けと組合せ、視覚的に2階にもつながる（写真：①）



●（現代の住まい） 畳の間と板の間の間の大黒柱。リビング・ダイニングの中心に配置（写真：①）

真壁 しんかべ

柱や梁等の構造材を表に見せる壁のつくり方を言い、構造材以外の部分は土壁や面材を下地とし、塗り壁・壁紙等で仕上げます。構造材を見せない大壁に比べ、構造材の状態が容易に分かります。

メリット：①木の温かみを感じられ、時とともに色に味わいが増し愛着も深まる。②木材が外面し常時空気に触れていて劣化しにくいので、構造体が長持ちする。

留意点：大壁に比べて壁の厚さが薄くなるため、断熱性能を確保するためには、断熱材の選定に配慮が必要です。外壁を真壁にする場合は、雨掛かりにならないような配慮も必要です。

大黒柱 だいこくばしら

大黒柱は、元来民家の平面の中央付近の構造上重要な太い柱で、家格の象徴として設けられました。最近でも家族やその集いの象徴する太い柱を「大黒柱」としてリビング等に設ける例も見られます。

メリット：①家の中で唯一の太い柱として独特の存在感を持ち、家族の集いの中心となる場を形成。②内部空間の意匠のメリハリや個性を表現。

留意点：周囲の柱よりも太い断面の部材のため、梁や建具、床仕上材などのプロポーションやバランスに配慮が必要です。意匠性に加え、梁との接合による柱の断面欠損を考慮した断面寸法とします。

3.8 装い

床の間

とこのま

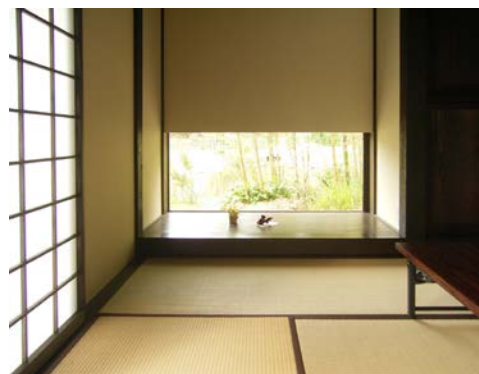
座敷の床の間は、構成要素や形式が決められていますが、最近は自由な発想の床の間や花や季節のものを飾る場所を、様々に工夫して設ける事例が増えています。

メリット:①書画や写真、花、置物、また家族の写真や作品等を飾ることは、暮らしの中にゆとりや彩りをもたらす。②室内で四季の移ろいを感じさせる。③家族の絆を確かめる等、暮らしの心の部分を満たす場となる。

留意点:スペースに余裕がなくても、壁をものが貼れる仕様にしたり、薄い奥行きでも何か飾れる場をつくる、という手間や工夫が重要です。



●（現代の住まい） 定型に近い床の間（写真：①）



●（現代の住まい） 床の間背後に地窓を設け、外の眺めを借景とした飾り棚スペースとしている



●（現代の住まい） 玄関の正面に床の間風の飾り棚が設けられている（写真：①）



●（現代の住まい） 階段の隔て壁を利用した飾り棚。階段に合わせて段状になっている（写真：①）

仏壇・神棚

ぶつだん ・ かみだな

住まいの中の礼拝及び祖先を祀るスペースで、家族の大切な思い出を顧みる場でもあります。住まいの中にこうした場を設けるのは、日本の文化です。宗派ごとの定式の他、最近は自由な発想の仏壇もつくられています。

メリット: 日常の暮らしの中に、家族の心のよりどころを確かめるための場をつくることができます。

留意点: 仏壇や神棚は、新築時には不要でも将来望まれることもあるため、予め設置スペースを確保しておく（当初は収納等に利用）配慮も必要です。また、仏壇や神棚をどのように見せるかへの配慮も必要です。



●（現代の住まい） リビングに連続する和室に仏壇を設けた例。（写真：①）



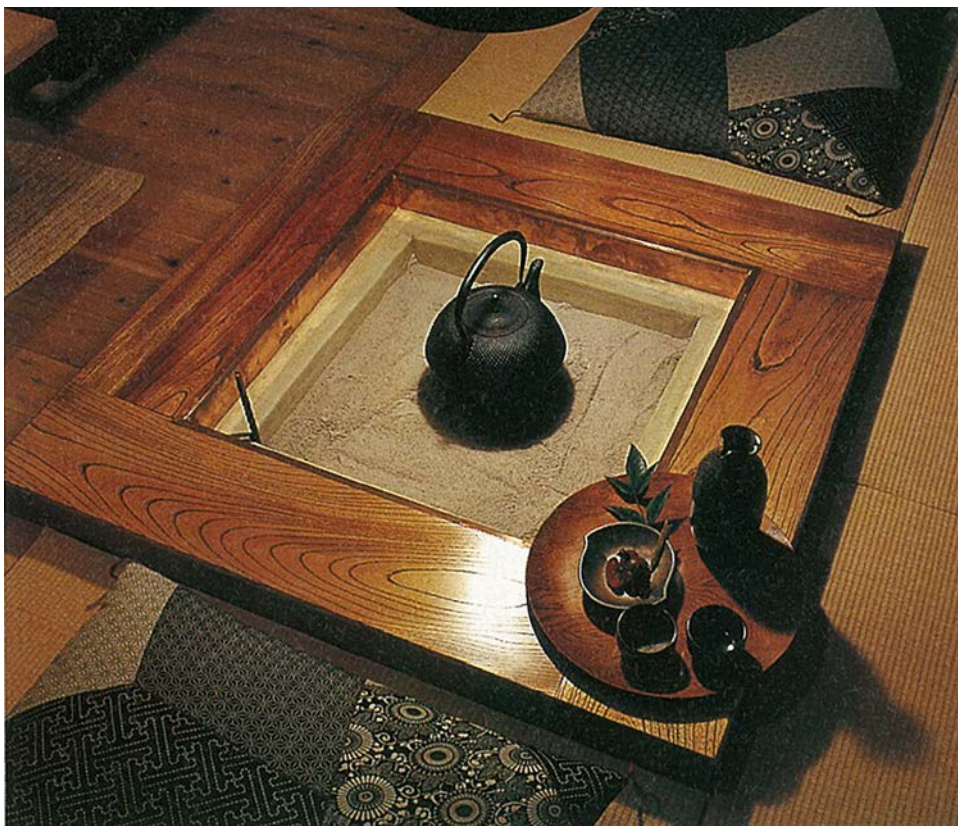
●（現代の住まい） 押入上部の神棚。神棚は壁面から持ち出しが多いが、専用スペースを確保（写真：①）



●（現代の住まい） リビング隣の和室に仏壇用収納を設置。建具を閉じると仏壇は隠れる（写真：①）



●（現代の住まい） リビングの掃き出し窓上部の棚板を、さりげなく神棚としてしつらえた例（写真：①）



● (囲炉裏) 周縁部にものを置ける板をまわした囲炉裏 (写真: ①)

囲炉裏

いろり

住宅内の床面を切り下げてつくられた炉で、調理・食事、採暖のために設けられます。最近では囲炉裏は少なくなりましたが、火を利用する例として、炉を組込んだ座卓、薪ストーブ等が見られます。

メリット: ①火のもつ象徴性は、家族や来訪者との調理作業・食事、くつろぎの中心の場の形成に相応しい。②炭火による調理上の効果。③輻射熱による採暖。

留意点: 火災防止や小さな子供等の安全面、十分な換気等への配慮が必要です。囲炉裏、薪ストーブを設置した部屋は火気設置室として法規制が掛かります。



● (座卓の炉) 囲炉裏を床座の生活に組み込んだ例。炉に蓋をすれば普通の座卓としても使える (写真: ①)



● (座卓の炉) 洋間に置かれた炉のある座卓 (写真: ①)

3.9 素材

土壁

つちかべ

土壁とは、小舞と呼ばれる竹や木で組んだ格子を下地とし、土を塗り重ねた壁を言います。日本の伝統的な壁工法で、仕上げには漆喰や聚楽土等が用いられます。

メリット：①防火性能が高い（40mm以上で防火構造）。②吸放湿性能があり室内の湿度を快適に保つ。③蓄熱性能があるため冬は一度温まると冷めにくい。④職人の手作業による美しい風合い。⑤自然素材のため廃棄後も土に還る。

留意点：土の断熱性は高くないため、断熱材との併用が必要です。また、乾式工法の壁に比べ、工期もコストも掛かることに注意が必要です。



●（土壁断面）小舞を組み、何層にも土を塗り重ねてつくる



●（現代の住まい）土壁の風合いを生かしたインテリア（写真：①）



●（現代の住まい）土壁の風合いを生かしたインテリア（写真：①）

自然素材 地域産材

しぜんそざい ちいきさんざい

住宅に使われる自然素材には、木・紙・土・石・竹等様々なものがあります。住宅を建てる地域で調達される材料は地域産材と呼びます。

メリット：①工業製品に比べ、製造や廃棄時に排出されるCO₂が少なく環境にやさしい。②時間が経つにつれて味が出る（経年美化）。③輸送に掛かるコストやCO₂排出量を抑えることができる。④地域の森林の保全育成・地域経済の活性化等に寄与する。

留意点：無垢の木材は経年により若干のそりや割れが発生することがあり、事前に住まい手に特性を説明し、理解していただくことが大切です。



●（現代の住まい）地域材（金山杉）と漆喰、畳、和紙等の自然素材でつくる健康的な住まい（写真：⑥）



●（現代の住まい）木の柱・床板・畳・障子・襖で構成し、時間が経つにつれて味が出る（写真：①）



●（現代の住まい）地域に残る民家を改修した住まい。自然素材を多用（写真：⑥）

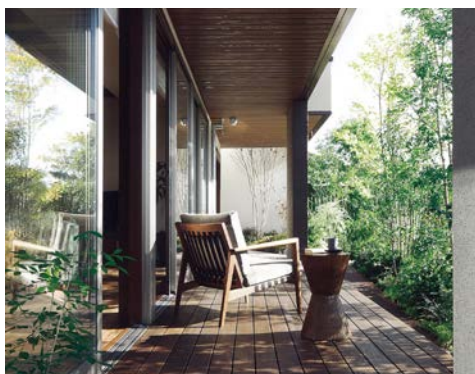


●（現代の住まい）室内を暖かい雰囲気と感じさせる和紙の壁紙（写真：①）

3.10 戸外



●（現代の住まい） 室内から濡れ縁、外部に至るつながり（写真：①）



●（現代の住まい） 深い軒下の濡れ縁（ウッドデッキ）。室内の延長として広がりを与える（写真：②）



●（現代の住まい） ウッドデッキを外での食事の場、ホームパーティーの場として利用（写真：①）



●（集合住宅） 集合住宅のバルコニーも濡れ縁のひとつの形式と言える（写真：③）



●（現代の住まい） 3 方の部屋から眺められる緑豊かな中庭（写真：②）



●（現代の住まい） 室内と連続性の高い中庭（写真：①）



●（現代の住まい） 玄関の正面に坪庭を設けることで、明るく開放的な玄関を演出（写真：①）



●（集合住宅） 集合住宅に設けられたコミュニティスペースとしての中庭（写真：③）

濡れ縁

ぬれえん

濡れ縁とは、建物の外部に設けられる雨ざらしの縁側で、木板や竹等で作られました。現代のウッドデッキ同様、室内の延長として利用できます。

メリット：①建物と連続することにより室内空間に広がりを出し、②外での食事や夏の夕涼み、秋のお月見等季節に応じた様々な使い方ができる。③町家等ではご近所の方との日常の交流の場（ぼた餅作りなどに類する可動方式もある）。

留意点：濡れ縁の木部は腐朽しやすいので、軒を深くして雨掛りを軽減する、耐久性の高い木材を使用する、木材保護塗料を塗る等の配慮が必要です。

坪庭・中庭

つばにわ ・ なかにわ

坪庭や中庭は、かつての町家によく見られ、採光・通風・鑑賞等を目的として設ける、建物に囲まれた小さな庭を言います。

メリット：①奥行きが深い敷地や建物に自然の光と風を呼び込む。②植栽により室内から季節感を楽しむことができる。③坪庭・中庭を挟んで部屋がつながり、家族同士の程よい距離感が保たれる。

留意点：敷地や建物面積に多少のゆとりが必要です。また、中庭に面して窓を集約し、周囲に対して壁ばかりを設けた住まいは、閉鎖的な印象を与えます。

植栽

しょくさい

植栽は、鑑賞や修景以外に、日射遮蔽・防風・材木・食料（果実等）・燃料（薪）等の確保等、様々な目的で植えられます。

メリット：①落葉樹は夏の日差しを遮り冬の日差しを取り込むため南側に植えると有効。②常緑樹は生垣や防風に利用。③花や実のなる樹木は四季の移ろいを感じさせ、鳥等を招く。④通りに面した生垣やシンボルツリーは道行く人の目を楽しませ、まちなみ・景観を整える。

留意点：庭が狭く十分な植栽面積が確保できなくても、プランターや壁面緑化等、様々な工夫で緑を施しましょう。



●（アプローチの植栽）住宅のアプローチや境界部の植栽。地域の景観向上にも貢献（写真：①）



●（カーテン状の植栽）日射遮蔽のためのよしずの役割を担う、つる性植物による緑のカーテン（写真：⑦）



●（街角の植栽）夏期の日射を遮るとともに、街角の景観を整える植栽（写真：⑦）



●（庭の植栽）室内から鑑賞できる植栽。風上の植栽は風の温度を下げる効果がある（写真：②）

前庭

まえにわ

民家の前庭は、人を迎える導入のスペースであるとともに、地域のコミュニティに開放され、半公共的な機能をたせることもありました。現代においても、ポーチのつくりを工夫して近所づきあいや防犯に役立てたり、駐車場を子供の遊び場に転用したりすることができます。

メリット：①日常の中のおしゃべり等近所づきあいの場の確保。②近隣相互の視線の通りやすさによる防犯性の向上。③駐車場等前庭を隣戸で一体化、オープン化し地域の小広場として有効活用。

留意点：コミュニティ形成上、近隣の方と話し合い、連携してつくることが重要です。



●（伝統的な民家）落ち着いた趣の前庭（写真：①）



●（現代の住まい）日中は遊び場にもなる住宅アプローチ部分の駐車場スペース（写真：①）



●（現代の住まい）通りすがりに立ち寄っておしゃべりのできるポーチ（写真：①）

3.11 配置

建物配置

たてものはいち

建物の配置の工夫により、季節風に対応したり、密集市街地の採光・通風を向上させることができます。

メリット：①富山の砺波平野の散居村には、アズマダチと呼ばれる伝統的な民家形式が発達してきました。風の弱い東（アズマ）側に玄関や美しい真壁の妻面を向け、雨風の強い西側は大壁で開口部をほとんど設けません。季節風から、建物



●（アズマダチ）風の弱い東に向けて建つアズマダチ、西側には屋敷林（カイニヨ）を植樹（富山）



●（町家の坪庭）町家の坪庭の配置を近隣と協調することで、採光・通風を確保し合う

と暮らしを守る知恵と言えます。
②町家は集まって住むため

の知恵の宝庫です。建物や坪庭の配置は、街区内でほとんど同じ位置に協調して

設けられます。これは住宅への採光や通風を守るための暗黙のルールと言えます。

参考文献一覧

住まい・住文化に関するもの

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 『日本人の住まい』 | E.S. モース (株)八坂書房 1886 年 (原典初版) / 2004 年 (新訳版) |
| 2. 『日本人の住まい 住居と生活の歴史』 | 稲葉和也・中山繁信 (株)彰国社 1983 年 |
| 3. 『住まいの人類学』 | 大河直躬 (株)平凡社 1986 年 |
| 4. 『家屋と日本文化』 | J.P. マサビュオー (株)平凡社 1996 年 |
| 5. 『すまいの歳時記—伝承の暮らしとしつらい—』 | 清家清監修 (株)講談社 1985 年 |
| 6. 『和風の住まい術』 | 山口昌伴 (株)建築資料研究社 1994 年 |
| 7. 『住まいを読む 現代日本住居論』 | 鈴木成文 (株)建築資料研究社 1999 年 |
| 8. 『草庭』 | 堀口捨己 (株)筑摩書房 1985 年 |
| 9. 『加藤周一著作集 (20) 日本美術の心とかたち』 | 加藤周一 (株)平凡社 1997 年 |

民家に関するもの

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1. 『日本の民家』全 8 巻 | (株)学研 1980・1981 年 |
| 2. 『日本列島民家入門』 | 宮澤智士 INAX 出版 1993 年 |
| 3. 『民俗建築大事典』 | 日本民俗建築学会編 柏書房(株) 2011 年 |
| 4. 『民家は生きてきた』 | 伊藤ていじ (株)美術出版社 1963 年 |
| 5. 『日本の民家』 | 伊藤ていじ・二川幸夫 (株)美術出版社 1962 年 |
| 6. 『日本の民家』 | 今和次郎 (株)岩波書店 1989 年 |

伝統的技術に関するもの

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 『民家のしくみ 環境と共生する技術と知恵』 | 坊垣和明 (株)学芸出版社 2008 年 |
| 2. 『民家の自然エネルギー技術』 | 木村建一 (株)彰国社 1999 年 |
| 3. 『住まいの伝統技術』 | 安藤邦廣・乾尚彦・山下浩一 (株)建築資料研究社 1995 年 |